

果樹情報 第9号 (R7.7.23～R7.8.6)

県中農林事務所須賀川農業普及所・JA 夢みなみ(すかがわ岩瀬地区、あぶくま石川地区)

1 果樹の生育状況

もも「あかつき」の果実肥大は、暦日対比・満開後日数比較ともに平年並です。また、なし「幸水」の果実肥大は、暦日対比で平年並、満開後日数対比で平年より低く、「豊水」の果実肥大は、暦日対比・満開後日数比較ともに平年並の状況であり、りんご「ふじ」は暦日対比・満開後日数対比ともに平年並の状況です。

表1 管内の各樹種における果実肥大状況（令和7年7月1日現在）

樹種	品種(調査地点)	本年		平年		平年比	
		縦径 mm	横径 mm	縦径 mm	横径 mm	縦径	横径
りんご	ふじ(須賀川市浜尾)	54.5	61.5	52.6	58.5	104%	105%
	ふじ(鏡石町高久田)	47.3	50.1	51.7	56.6	92%	89%
	ふじ(石川町沢井)	53.0	57.7	49.8	54.4	106%	106%
	つがる(石川町沢井)	58.1	67.6	57.5	65.1	101%	104%
	ジョナゴールド(石川町沢井)	53.4	60.0	54.2	61.5	98%	97%
	シナノスイート(石川町沢井)	51.7	56.5	51.2	53.1	101%	106%
もも	あかつき(須賀川市江持)	60.7	66.0	58.5	61.9	104%	107%
なし	幸水(須賀川市越久)	38.0	47.4	39.1	46.9	97%	101%
	豊水(須賀川市越久)	43.0	46.9	40.4	44.8	106%	105%

2 栽培上の留意点

(1) 共通

- ア かん水
夏季にかけて果樹園からの1日当たりの蒸散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm 程度であるので、1回のかん水は25～30mm 程度(10a 当たり25～30t)を目安にし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回当たりのかん水量は少なくし、かん水間隔を短くしましょう。
- イ 草刈り
樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう(地表面からの蒸散量は、草生園においてマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます)。
- ウ マルチ
刈草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) も も

- ア 中生品種の収穫前管理
果樹研究所のDVRモデルによる「あかつき」の発育予測では、本年の収穫開始日は7月27日で、収穫盛期日は7月31日と予測されています(須賀川地域における収穫開始は7月29日と予想されます)。
核や胚に障害を持つ果実は早熟する傾向にあるので、核障害の発生が多い場合は注意が必要です。また、「あかつき」等中生種は今月上～中旬頃から着色期に入るため、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理が遅れないよう計画的に実施しましょう。

(3) な し

- ア 収穫予測
果樹研究所DVRモデルにおける「幸水」の収穫盛期の予測では、平年より6日早い8月23日頃と予測されています(須賀川地域における収穫開始は8月25日と予想されます)。

○修正摘果の目安
満開後110日(8月10日)時点で下記の大きさが目安となります。
2L(32玉):果実横径 80mm M(40玉):果実横径 70mm
摘果対象:裂果した果実、変形程度の著しい果実、果点コルク間の地色が白い果実(肥大が停滞しやすい)、小玉果

(4)りんご

ア 早生種の収穫前管理

「つがる」や「さんさ」では果面の30%程度が着色した頃から葉摘みを実施してください。日焼け果の多発が懸念されますので、直射日光の当たりにくい部位から行い、果実を確認しながら徐々に実施しましょう。また、地色の緑色が強い時期に早めに葉摘みを行うと、日焼け果の発生を助長するので注意してください。

イ 修正摘果

果実肥大や果形、障害の有無等の区別が付きやすい時期なので、小玉果、変形果、病害虫被害果、サビ果を中心に修正摘果を実施しましょう。

ウ 枝吊り・支柱立て

果実の肥大にともない枝が下垂するので、樹冠内部の受光条件の改善、枝折れ防止及び防除効果の向上のため支柱立て及び枝吊りを実施しましょう。なお、高温条件下では、果実に直射日光が当たると日焼け果が発生しやすくなるため、果実が果そう葉で隠れるようにするなど着果位置に留意してください。

3 病害虫防除

(1)病害

ア リンゴ褐斑病

本年は褐斑病の発生ほ場割合が平年より高く(令和7年6月 30 日付け病害虫防除情報)、所内の予察調査樹(殺菌剤無散布)でも、平年より高い発病葉率となっています。梅雨期の降雨により、今後発生が急拡大するおそれがあるため、本病の発生状況に注意してください。既に本病の発生が認められる場合は、罹病した葉を園地外で処理すると共に防除暦に従い防除を行ってください。

また、本病が多発すると罹病落葉での子のう胞子の越冬量が増加し、次年度の多発を招くおそれがあるため、防除間隔が空かないよう10日間隔での防除を徹底し、感染拡大を防止しましょう。

イ モモ灰星病、ホモプシス腐敗病

梅雨期は灰星病の重点防除期であるため、降雨前に防除を実施してください。晩生種に対しては、ホモプシス腐敗病の防除対策も必要であるため、収穫期の薬剤防除を徹底してください。なお、薬剤の使用に当たっては、農薬使用基準(収穫前日数、使用回数)に十分注意してください。

(2)虫害

ア モモハモグリガ

今後の気温が2℃高く推移した場合、モモハモグリガの第3世代成虫の誘殺盛期は、7月4半旬頃と予測され、第4世代の防除適期は7月4半旬頃と推定されます。また、第4世代成虫の誘殺盛期は、8月1半旬頃と予測され、第5世代の防除適期は8月2半旬頃と推定されます(表2)。

本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意してください。

イ ナシヒメシンクイ

今後の気温が2℃高く推移した場合、ナシヒメシンクイ第2世代成虫の誘殺盛期は、7月3半旬であると予測され、第3世代幼虫の防除適期は、7月4半旬頃と推定されます。また、第3世代成虫の誘殺盛期は、8月1半旬頃と予測され、第4世代幼虫の防除適期は、8月2半旬頃と推定されます(表2)。

本種はモモ等の核果類の新梢伸長が停止するとナシ果実への寄生が増加します。例年、ナシでの果実被害が多い地域では、近隣のモモ等における防除も徹底しましょう。なお、薬剤による防除を実施する場合には、使用基準を遵守するようにしてください。

ウ ナシマルカイガラムシ

今後の気温が2℃高く推移した場合、ナシマルカイガラムシ第2世代のふ化開始は、7月4半旬頃と予測され、ふ化盛期は7月6半旬頃と推定されます(表2)。

カイガラムシ類はふ化期の防除が重要であるため、防除適期を逃さないように防除するようにしましょう。

エ ハダニ類

病害虫防除所の6月中下旬巡回調査におけるハダニ類の発生ほ場割合は、りんご、モモでは平年よりやや高く、ナシではやや高い～平年並みでした(7月10日付け令和7年度病害虫防除情報)。高温期は増殖が速いのでハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)の密度になったら速やかに防除を行うようにしましょう。

表2 果樹研究所における防除時期の推定(令和7年7月 15 日現在)

今後の 気温予測	モモハモグリガ				ナシヒメシンクイ				ナシマルカイガラムシ	
	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期	第4世代 誘殺盛期	第5世代 防除適期	第2世代 誘殺盛期	第3世代 防除適期	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期	第2世代 ふ化開始	第2世代 ふ化盛期
2℃高い	7月16日	7月19日	8月3日	8月7日	7月11日	7月18日	8月4日	8月10日	7月19日	7月28日
平年並	7月16日	7月21日	8月5日	8月8日	7月11日	7月20日	8月8日	8月14日	7月21日	7月31日
2℃低い	7月16日	7月21日	8月6日	8月10日	7月11日	7月20日	8月10日	8月18日	7月21日	8月1日

起算日:モモハモグリガ第2世代誘殺盛期 6月25日(予測値)(演算方法は三角法)
起算日:ナシヒメシンクイ第 1 世代誘殺盛期 6月17日(予測値)(演算方法は三角法)
起算日:ナシマルカイガラムシ 3月 1日 (演算方法は三角法)

オ カメムシ類

病害虫防除所のフェロモントラップ調査におけるカメムシ類の越冬世代の誘殺数は、平年より多い傾向にあります(7月10日付け令和7年度病害虫発生予察情報注意報 第1号)。当管内におけるフェロモントラップ調査においては、一部を除き誘殺数は少なく推移しています。しかし、今後発生量が増加する可能性もあるため、飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう。

表3 JA 夢みなみ・須賀川農業普及所カメムシトラップ調査結果

設置日	5 月 23 日			5 月 22 日			5 月 26 日			6 月 3 日		
調査日	須賀川市和田六軒			須賀川市越久			鏡石町高久田			石川町		
	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考
6/30	3	0		3	0		0	0		1	0	
7/7	1	0		7	0		3	0		1	0	
7/14	5	0		1	0		21	0		1	0	
7/22	0	0		0	0		0	0		1	0	

作成者: 県中農林事務所須賀川農業普及所 電 話: 0248-75-2181 FAX: 0248-72-8331	ご不明の点は、最寄りの JA または須賀川農業普及所にお問い合わせください。次回の発行予定日は、8月6日(水)です。
---	--